

発行所
真宗大谷派宗務所
代表者 木越 渉
編集/東本願寺出版(真宗大谷派宗務所出版部)
〒600-8505 京都市下京区烏丸通七条上る
TEL.075-371-9189(東本願寺出版)

購読料 無料
送料 1部1カ年1,300円
(1,182円+税10%)※部数により変動
振替口座番号 01000-6-27404
加入者名 東本願寺出版部



@shoseien_official

どうぼうしんぶん

同朋新聞

Dōbō Shimbun

9

Vol. 802
September 2024



手水屋形ちようずやかたの修理工事(真宗本願)

重要文化財(鐘楼・手水屋形)の修理のご寄付を募っております



東本願寺 保存修理工事 検索

今月の写真

境内にある「手水屋形」(重要文化財)の修理に向け、仮設素屋根がかけられました。今後、瓦の葺き替えや耐震補強工事などの修理工事が行われ、2025年3月の完成を予定しています。

このたびの素屋根は、今では見ることが少なくなつた丸太を組み合わせる京都の伝統工法で造られています。この工法の採用にあたっては、伝統技術を次世代に継承することを目的とした京都府からの要請により、真宗本願の重要文化財修理で初めて取り入れられました。

今月の法話 如是我聞

いのちの樹

四国教区 東讃第1組 真行寺
藤井 恭子(73)

とある寺より頂いた日めくりカレンダー。中でも特に心惹かれたことばがある。

晴れの日は枝が伸びる

雨の日は根が伸びる

はじめてこのことばを目にした時、すぐに一本の樹が思い浮かんだ。しつかりと地面に根を張り、青々とした葉を茂らせ、すくつと立つ一本の樹。

いつからここに居るのだろう。人の手によるものか、はたまた鳥が種を落としたのか。始まりは定かではないが、確かなことは種だけでは育つことはできず、陽の光や恵みの雨が降り注いではじめてこの樹が育ち、今日まで生かされてきたのだという。だからこの樹はいのちそのものと言えよう。そう思うといとおしきとともに畏敬の念すら湧いてくる。

親鸞聖人の最晩年のおことば「自然法爾」を想う。

ありのまま、さまざまに計らいをめぐらせていても、弥陀の誓願は届いているという意味だそう。一本の樹も私も自分の力だけで生きているのではない。大いなるものに抱かれ生かされているのですよと伝えてくださっている。おかげさまの世界である。

CONTENTS

2・3面

人間といういのちの相
木桶の醤油を
次の世代に

山本康夫さん



4面

通信員リレーレポート

現在を生きる 第251回

縁—お寺の掲示板— 第14回

5面

ひかりを伝えたひと
—七高僧と聖徳太子— 第9回

6面

真宗門徒として

帰敬式を

受けましょう



この紙面では、さまざまな人とおして、現代社会の抱える課題や人間そのものについて考え、宗祖御遠忌テーマ「今、いのちがあなたを生きている」、慶讃テーマ「南無阿弥陀仏 人と生まれたことの意味をたずねていこう」の学びを深めていきたいと思ひます。

人間といういのちの相

すがた
連載



木桶の醤油を次の世代に

インタビュー
山本康夫さん

ユネスコの無形文化遺産にも登録されている「和食」。その和食に必要な不可欠な調味料の一つである醤油は、伝統的に「木桶」で発酵させ、製造されてきました。現在では工場で大産生産もされている中、瀬戸内海の小豆島で昔ながらの木桶による醤油を製造し続けている山本康夫さんのお話から人間の相を考えます。



ヤマロク醤油5代目社長。香川県小豆島在住。大学卒業後、地元の高松メーカに就職。営業職として全国各地の商店を見て回ると、昔ながらの無添加の商品への想いを強くし、一念発起し家業であるヤマロク醤油で醤油の製造・販売に携わる。

家業を継いだきつかけ

「家業の醤油屋を継ぐことになったきつかけはなんだったのでしょうか。」

子どもの頃は家業のことはまったく考えていませんでした。しかし大学を卒業する時に、地元の小豆島が好きだったので、「醤油屋を継ごうか」と父に聞いたところ、儲からないから継がなくていいと言われたんです。それで地元の小豆島の佃煮メーカーに営業として就職しました。大阪と東京で営業をしていた時には、大手スーパーなども担当していました。働いていた会社は日本で最初に無添加の佃煮を量産化したメーカーでしたが、当時はとにかく値段とボリュームが重要で、なかなか無添加という特徴に注目してもらえない。添加物の多い食品が並ぶ店を見るたびに、「こういうところには売りに行きたくないな」と思うようになつたんです。そして、商品を売りに行くの

ではなく、売ってくれと言わせるものをつくりたいと思い、会社を辞めて醤油屋を継ごうと実家に帰りました。

しかし、会社を辞め、うちの決算書を初めて見た時に、これでは利益が出ないとすぐにわかりました。そこで早速、営業を始めましたが、出張経費を出せるほどの余裕もなく、また木桶で醤油を大量に生産するのも難しいこともわかりました。

そこで、小売店に卸すのではなく、直接販売に力を入れることにしたんです。それまでも直接販売を行っていたので、少ないながら顧客リストがありました。そのリストを使用してダイレクトメールを送ったり、業務用の醤油の生産を減らして、小さいサイズの瓶の醤油を販売するなど、少しずつ直接販売の売り上げを増やしていきました。

なぜ木桶を

自分でつくるようになったか

「山本さんは、これからの100年、200年をイメージして事業に取り組んでおられるそうですがそれはどうしてでしょうか。」

うちはメインの醤油を造るのに4年かかります。そうすると全体的に物事を考えるスパンも長くなります。

一般の会社だと、長期計画を3年や5年の期間で立てたりしますが、私からすると3年では醤油を二度も造れませんが、長期でも、何でもないんです。今私は、何年という年数ではなくて、何代という

商品販売とともに、父の醤油造りの手伝いもしていました。親子で働くといがいケンカになりますが、うちもよくケンカをしていました。しかし、家に戻って3年目に父が倒れ、仕事ができなくなつてしまったので、それ以降は私が一人で醤油を造るようになったんです。そこから、いろいろと自分なりに仕事のやり方を変えていったんです。

自分でつくるようになったか

世代で考えているのですが、それは子どもが生まれたことも影響しています。息子の代や、孫の代になる頃までが長期計画であつて、その中で5年や10年の短期の計画を立てながら事業をブラッシュアップするようになりました。

「一代が30年だとすると、数回しか醤油が造れないわけですね。その中でどのようなビジョンを考えておられますか。」

変えてはいけないものと、変えなければいけないものをきちんとわけて考える

仕事だと考えています。

「山本さんは醤油造りだけでなく、「木桶職人復活プロジェクト」として木桶も自分でつくりだしているそうですね。」

木桶をつくることになったのは、醤油の売り上げが増え、桶が足りなくなつてきた時です。新しい桶が必要になりまして、当時桶を制作していたのは日本に1社だけでした。そして、新桶を発注したのですが、1社しかないその会社でさえ、新しい桶の注文を受けたのが戦後47年でした。当然その会社は木桶だけでは経営が成り立たず、木工所の仕事もして生計を立てていました。

そして、納品の時に「いつまで桶づくりをするかわからんで、自分の桶は自分で直してね」と言われ、これはいけないなと思つたんです。私が生きている間は木桶をまだ使えますが、子どもや孫の代には、もう木桶が使えなくなると感じました。桶屋がなくなると、木桶が使えなくなるまでのカウントダウンが始まります。



木桶づくりの様子

「伝承や継承を大切にされてきた山本さんの今の思いをお聞かせください。」

私たちの木桶プロジェクトには、今多くの後継者が帰ってきています。みんな、最初の頃は親世代が来ていました。でも、だんだん息子や娘に代替わりしています。もう自分の代で辞めてもいいかなと思つていたりも、商品が売れ始めて、子どもの世代が帰ってきたりするので、ただ、肝心要であるうちの会社は、子どもたちが後を継ぐのかわかりません。

次の世代に「たすき」をつなぐ

うちには子どもが3人いますが、3人とも今は全然継ぐ気がないようです。でも、自分が10代の時にも、実家の家業のことなど一切考えていませんでしたから、これは仕方ないことだと思つています。誰かが継いでくれたらいいとは思つていません。

伝統的なものをつないでいくのは「一駅伝」と同じようなものだと思うんです。先代から「たすき」を受け、そして子や孫の世代にたすきをつないでいく。駅伝の

中継を見ていると、たすきを

つなげない場面が一番つらいんですよ。だから選手は、たすきをつなぐと必死になるんです。

なぜ子どもや孫の世代に桶づくりを伝えたいと考えるのか。もし桶職人がいなくなる代で子や孫がたすきを受け取つたとします。桶自体は100年以上使えますが、そのまま何もせずに、桶職人がいなくなった後に次の世代にたすきを渡すと、その受け取つた世代、もしくはその次の世代には、もう木桶で醤油を造れなくなってしまうんです。

「たまたま私は桶職人がまだいる時代にたすきを受け取りましたが、桶職人がいなくなると、本物の醤油が近い未来にはなくなつてしまうことになりそうです。そう思うと、どうにかしないといけないじゃないですか。桶がないと、たすきがつながらなくなるのはわかっているんです。だから、私は次の世代にたすきをつなぐために桶をつくつたんです。たすきをつないでいるという感覚を持つと、自分がたすきを受けた時に、その先もたすきがつながらなくなることをしていかないといけないと思うのではないのでしょうか。」

絶滅の危機にあるのは、食べるもの以外にもいっぱいあると思います。そして、消える時は、人知れずこっそり消えていくんです。最近、海外で日本の包丁はとても人気



もろみ蔵内

で、来日したシエラが買っていくそうです。その包丁も、一時は職人がゼロになりそうでしたが、日本の包丁の素晴らしさを知ったドイツのナイフメーカーが支援をしているそうです。日本の良いものって、意外と日本人は気がつかず、外国人の方が気づくのかも知れません。

「当たり前になつてしまつたら、大切な部分を見落としてしまつたのかもしれない。私たちが一人ひとりにも伝えられてきた念仏やお釈迦様の教えというたすきが、「こまでつながつていることを感じながら、次の世代にたすきをつないでいく役目がある」とあらためて感じさせていただきました。(了)」

通信員リレーレポート

第251回 いまを生きる

日本全国のご門徒の方々や各地で開かれている同朋の会を紹介しします。



野原 美穂さん (大垣教務所にて)

わからないけれど、 難しくもない、 仏教の教え

大垣教区 第6組
康安寺門徒
野原 美穂さん(41歳)

「まだまだ仏教はわからないことだらけ。だから、知るためにいろいろな行事に参加しています。」
そう語る野原美穂さんは、お寺の奉仕団など、多くの場所に参拝し聴聞されている。「すべてが学びの

場であり、御同朋との出会いの場であり、楽しく仏教に触れられる場です」とうれしそうに語られる。

野原さんのご実家は他宗派であつたそうだが、どのようなご縁で真宗門徒となられたのだろうか。

それは早くにご両親を、さらにお兄様までも若くして亡くされたこと、また真宗門徒のご主人と結婚されたことなど、その人生の節目での大きな出来事や出会いに導かれたご縁によるものだという。真宗門徒として、まずはお勤めを覚えたいと、「正信偈」の練習から始められた。

さらに、真宗の教えを知りたいと、さまざまな行事に参加し、そこ



「推進員・法話ノート」

で感じたことや気づかれたことを一つひとつノットに書き溜めていかれた。また、お内仏のお荘嚴の作法や、『阿弥陀経』、『正信偈』、『御文』の現代語訳やその意味、真宗の歴史、ご法話で聞かれた内容など幅広く書き続けられている。

推進員となられたのは約2年前、ご住職に「お寺のことを知ってほしい」と誘われてのこと。年配の推進員の方から、「若いのがんばっているね」と励まされ、初めて身につけた肩衣に自覚と自信をもらったという。

さらに、わからないからこそより多くの方が集う場所、それぞれの体験をおした仏教の捉え方から世代を超えた学びを得たいと、聴聞に励んでおられる。

「お寺や仏教は難しいものだと思うけれど、人と人とのつながりの中にあり、生活に密着しているのだと知ってほしい」と野原さんは語られる。

このように真宗に深い興味を持たれ、一つひとつ自分の身に教えを受けていきたいという気持ちで、推進員となられた原動力なのだろう。

多くの人とのつながりの中で仏教を感じ、互いに学びあう野原さんの姿勢は、御同朋、御同行としての真宗門徒の姿なのだろうとあらためて感じられた。

大垣教区通信員
内田 篤宏

縁 お寺の掲示板 第14回

お寺の掲示板に込められたさまざまな願いを、
今月の言葉と一緒に毎月お届けします。



しょうもんじ 正閨寺 (九州教区 福岡組)
福岡県福岡市早良区原6-17-21
住職 小田 朋隆

教えたいという人に
ニセモノはあっても
聞きたいという人に
ニセモノはありません

金子大榮

「時代は問い、親鸞は答える。その問いに身を置き、答えるに耳を傾ける。そこに真宗人の道がある」と語られ、宗祖聖人の「聞思の道」に御一生を尽くされた金子大榮先生の言葉です。人は人から教わることはあっても、人が人を教えることなどできない。自身を静かに立ちどまらせてくれる「法」の声としていただいています。



法話カード

市の中心部から少し離れた住宅地の中にある正閨寺。掲示板は住職の小田朋隆さんが月1回のペースで用意されている。小田住職は九州大谷短期大学で講師をされていて、授業でも法話をよく紹介するそう。またお寺の訪問者用に法話のポストカードも自作されていた。「今の時代、中身はもろろんですけど、その短さという点に法話の良さがありますね」と語られる小田住職は、言葉をとても大切にされている印象だった。

「人間は言葉に救われるのです。けれど言葉がわかつて救われるのではない。われわれが救われる言葉に出会うということですね。師とおおぐ安田理深先生の語りを紹介されつつ、小田住職は法話を選ぶ際の留意点を二つあげられた。「押しつけ」になつていないか、「上から目線」ではないか。そうした点も坊守の恵美子さんに感想を求めて書くという。

取材時に見せていただいた小田住職の本には、色とりどりの無数の付箋が貼られ、それはまるで言葉の宝石箱のようだった。

九州教区通信員
本田 智子

オープンキャンパス & 入試対策講座

9/22(日) 9:30-15:30

詳細・申込みはこちら

ご家族での参加も大歓迎

高校1・2年生にオススメ! オープンキャンパス

高校3年生にオススメ! 公募制推薦入試の対策方法について、2教科型は河合塾講師、小論文型は本学教員が解説します!

お問い合わせ: 入学センター
〒603-8143 京都市北区小山上総町
TEL: 075-411-8114(直通)



好評発売中

真宗聖典 第二版

大判 定価 4,950円(税込)

小判 定価 4,400円(税込)

東本願寺出版 HIGASHI-HONGANJI PUBLISHING

TEL 075-371-9189 FAX 075-371-9211

東本願寺出版 検索

永田文昌堂

最新刊

「浄土論」講讀 十二講

北塔光昇著 定価6050円(税込)

真宗教義の根幹を為すものが、『浄土論』であり「論註」である。この書では、宗祖親鸞聖人が「論註」の多くを引かれた教行信証「証文類」への引用箇所を中心に、「浄土論」を解説する。

親鸞と現代

武田龍精著 定価3080円(税込)

主に、阿彌陀如来と凡夫存在の不二の關係論、宗教多元時代における浄土教の脱構築の問題、核兵器の時代における「生老病死」、宗教と現代宇宙論、宗教と科学のあいだに関する課題、仏教思想とホワイトヘッド哲学について考察する。

真宗からの華嚴・天台 読本一経典編

北塔光昇著 定価1980円(税込)

一仏乘の基本的な宗旨に華嚴宗と天台宗があげられ、これらは真宗僧侶が親鸞聖人の教えを学ぶ基礎学として非常に重要である。この書では華嚴・天台の教義を学ぶ前提として、それらの根本經典の内容を真宗との關係をも考えながら概観する。

〒600-8342 京都市下京区花屋町通西洞院西入 TEL 075-371-6651 FAX 075-351-9031

しかりを云え下ひと

七高僧と聖徳太子

第9回



親鸞聖人がお念仏の教えを自分のところまで届けてくださった師として、生涯大切に仰がれた方々がいます。「七高僧」と呼ばれるインドの龍樹・天親、中国の曇鸞・道綽・善導、日本の源信・源空(法然)。そして「和国の教主」と仰がれた聖徳太子です。親鸞聖人は彼らからどんな「ひかり」を受け取られたのでしょうか。本号では「正信偈」とおして、天親の教えを振り返ります。

天親菩薩

四

天親菩薩造論説
歸命無碍光如来
依修多羅頭真実
光闡横超大誓願
広由本願力回向
為度群生彰一心
歸入功德大宝海
必獲入大会衆数
得至蓮華藏世界
即証真如法性身
遊煩惱林現神通
入生死菌示応化

〔正信偈〕真宗大谷派修行集(赤本) 十八〜二十頁

天親菩薩が示したこと

「正信偈」の天親菩薩を讃える段は、天親菩薩が『浄土論』を著した(造論)ことから始められています。『浄土論』は、『仏説無量寿経』の注釈書です。『仏説無量寿経』は、阿弥陀仏(無碍光如来)とその本願の物語を説く經典です。天親菩薩は、仏の言葉である経(修多羅)を丁寧にかめました。その結果、阿弥陀仏の本願力が「一心に」というかたちではたらくことを明らかにしました。それは、私が煩惱具足の存在であることも障りとならないものだったのです。

天親菩薩の指摘に触れた法然上人や親鸞聖人は、大いに驚き、勇気づけられたことでしょう。「浄土教は、修行もできない者のための教えでしかない」とされがちだったからです。それなのに、極めてすぐれた仏教者である天親菩薩が、浄土への往生を願うと自ら表明しているのです。

親鸞聖人が、自身の「親鸞」という名告りに天親菩薩の名前から一字を取ったことにも、その感動がうかがえます。

「浄土への往生」といいますが、その世界は「大宝海」にも喩えられる平等の世界でもあります。そこでは、あらゆる存在が差別なく輝くのです。

さらに、眞実の世界に触れた者は、眞実の世界に閉じこもるわけではありません。姿をかえて現れた仏(応化)として、迷う人びとの世界(生死菌)にはたらくのです。

例えば、念仏を称えよとただ言われても、なかなか難しいものです。普段から念仏を称

えている人でなければ、どういうタイミングで、どういう声の大ききで称えたらよいか、と戸惑ってしまう。そんなことは気にする必要はないと言われても、社会の中で生きているとつい周囲の目を気にしてしまいます。

そんな時に、誰かが私の側で合掌して念仏を称えていれば、私自身も湧き上がるままに安心して念仏を称えることができます。もちろん、隣で念仏を称えている人は、私のために念仏していたわけではありません。湧き上がってきたままに念仏をただ称えただけです。しかし、その姿は、私が念仏を称える障壁を意図せずに取り払ったのです。それは、念仏せよという仏の教化を手助けしていることに他なりません。

親鸞聖人は、天親菩薩の言葉をとおして、大海にも喩えられる世界に往生し、また念仏がこの世界でもはたらくことを確信したのでした。そして、「一心に」ということによつて、煩惱具足の私にひかりが届いていることを確かめたのです。



あきら 采翠 晃
大谷大学文学部
仏教学科教授
京都教区近江第25西組
長光寺住職

次回からは、曇鸞大師についてたずねていきます。

真宗門徒として「^{き きょう しき}帰敬式」を受けましょう

本山で帰敬式を受式しました

地元の4人の友人と「おかみそり(帰敬式)を受けよう」と思い立って上山。

宗祖親鸞聖人の御真影の前に座ったら、何か背筋がスッと伸びた感じがして、身の引き締まる思いがした。ありがたかった。これからも生活の中でお内仏の前に座って、お念仏していかなければならないと思った。

福岡県 木下正信氏(74歳)

剃刀の様子



「法名」(釋○○あるいは釋尼○○)が授与されます。

「お念仏の教え」に自らの人生を問いたずね、真宗門徒として新たに歩み出すことを誓う大切な儀式です。受式されますと、仏弟子としての名告りである

「法名」(釋○○あるいは釋尼○○)が授与されます。

「おかみそり」とも言われ、「仏」「法」「僧」の三宝に帰依し、宗祖親鸞聖人が明らかにされた

「お念仏の教え」に自らの人生を問いたずね、真宗門徒として新たに歩み出すことを誓う大切な儀式です。

帰敬式とは

法名の名付け方

法名には「本山選定法名(本山で選定された法名)」と「住職選定法名(住職が選定した法名)」の二通りがあります。帰敬式を受けようとする際には、事前にお手次の寺院にご相談ください。

帰敬式の受式場所

帰敬式は、真宗本廟(東本願寺)またはお手次の寺院にて受式できます。真宗本廟(東本願寺)では基本的に毎日、午前と午後の2回執行しています。お手次の寺院での受式を希望する場合は、住職にお尋ねください。

※全国の別院では、報恩講等の大きな法要の際に帰敬式が執り行われることもありますので、各別院や教務所にお尋ねください。

帰敬式受式後の歩み

ご本尊を安置した「お内仏」を中心として、お念仏の教えを拠り所とする生活を大切にしてください。具体的には、朝夕に「正信偈」をお勤めする。また、お手次の寺院の報恩講をはじめとする法要や同朋の会などさまざまな聞法の場に足を運びましょう。



お知らせ

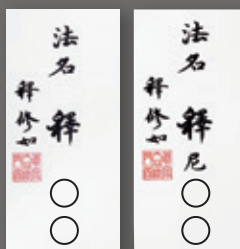
法名の取り扱いが変わります

開始日 2025年1月1日

主な変更について

- ◆ 男性には「釋○○」、女性には「釋尼○○」の法名授与を基本としつつ、受式者の願いに応じて、「釋○○」もしくは「釋尼○○」を選択いただけます。なお、選択事由の説明は必要としません。
- ◆ 帰敬式受式後において「釋○○」もしくは「釋尼○○」の名告りの変更に伴い、「変更後の法名紙の交付」を希望する場合は、所定の届出書の提出をもって、新たに法名紙を授与いたします。

※届出書については、研修部もしくはお近くの教務所にお尋ねください。



帰敬式相談窓口について

帰敬式の受式前、または受式後の疑問や悩みにお応えするため、研修部(帰敬式実践運動推進事務室)に「帰敬式相談窓口」を開設いたします。

帰敬式に関するさまざまな疑問や悩み等について、お気軽にご相談ください。

「遠松忌法要
—高木顕明師を想う集い—」勤修

—前を訪う 今、この時代に聞く非戦・平等の願い—



6月22日、大阪教区第23組浄泉寺(和歌山県新宮市)において、遠松忌法要が勤修された。この法要は、「大逆事件」に連座し、宗門から擯斥処分とされた高木顕明師の復権・顕彰と、師の非戦・平等への歩みをたずねる集いで、顕明師の命日である6月24日にちなみ、毎年6月第3土曜日に勤まっている。

宗派主催として2000年から続くこの法要は、全国から毎年多くの方々の参拝がある。今年も大阪教区主催のバスツアーが実施され、浄泉寺のご門徒や地元・新宮市の市民が参加された。

午前11時から、新宮市内の南谷墓地にある「高木顕明師顕彰碑」前で勤行が行われ、午後には、浄泉寺本堂において前住職の山口範之氏を導師として法要が勤まった。

勤行の後、大阪教区「高木顕明の事績に学ぶ実行委員会」実行委員より顕明師の論文「余が社会主義」が朗読され、その後、辻本雄一氏(佐藤春夫記念館館長)から、「熊野・新宮からみた高木顕明の評価と、これまでの歩み」と題した法話があった。その後、同実行委員による感話があり、自身にとっての顕明師との出会い直しについて語られた。

法要後、山口氏は挨拶で、ご門徒が遠松忌法要を続ける中で「住職に協力する」という意識から「自身の先祖の願いに動かされていた」と受けとめ直されたことを紹介され、顕明師の願いを確かめる意義を語られた。

レポート

「お葬式・お墓から人生を見つめる講演会」開催
—「葬る」とは? 「死」を受けとめるとは?—



7月18日、「お葬式・お墓から人生を見つめる講演会」が、大谷祖廟・賀慶殿にて開催された。

東本願寺出版発行の月刊『同朋』では、2024年1月号で「お葬式ってなんだろう?」、同7月号で「お墓ってなんだろう?」を特集。共にQ&A形式で「お通夜とお葬式の違い」や「お墓とお内仏の違い」などの疑問に回答するもので、回答者はそれぞれ門脇健氏(大谷大学名誉教授)、蒲池勢至氏(民俗学者)。

今回の講演会では、門脇氏、蒲池氏を招き、現代社会の中で変容しつつあるお

葬式・お墓のあり方を真宗の教えをとおして見つめなおすことが課題とされた。当日は約40人の参加があった。

両氏の各15分の講演では、お二人の経験、現場をとおして、「葬る」とは? 「死」を受けとめるとは? をテーマにお話があり、「現代では「死」のリアリティを感じる機会が少なく、希薄になっているのでは?」と問題提起された。その後45分のクlostーク、会場からの質疑応答があり、参加者からは「重みのある話にとっても考えさせられ、さまざまな思いがこみ上がった」という声が寄せられた。

月刊『同朋』2024年1月号、7月号
A4判/各400円(税込)

書籍の購入は



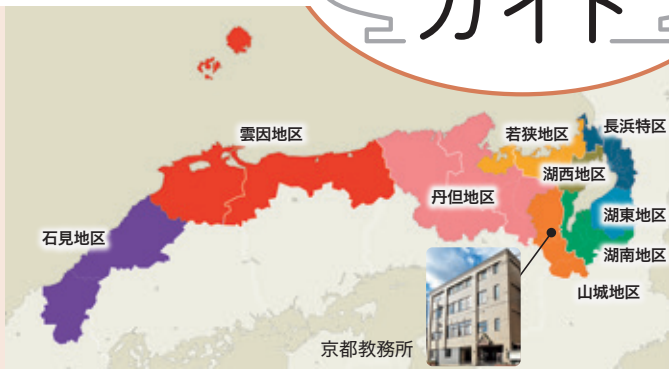
(TEL:075-371-9189)まで



お東さん
ガイド

お知らせ

教区及び組の改編
「京都教区」発足!
～両教区で培われてきた
教化事業を継承～



2024年6月、宗派の最高議決機関である宗会において、長浜・京都教区の新教区発足についての議決がなされ、7月1日付で京都教区が発足した。これにより、京都府、滋賀県、兵庫県北部、鳥取県、島根県、福井県の一部が京都教区となり、全国19教区体制となった。新たな京都教区では右の5点を教区教化の理念と姿勢として出発する。

また、これまでの京都教区では、教区内を8つの地区にわけて、それぞれ特色のある教化活動が行われてきたが、新教区では、この8地区に旧長浜教区を「長浜特区」として加え、全9地区での教化推進体制をとった。なお「長浜特区」には、地元根差した教化の取り組みが引き続き行えるよう、長浜別院内に「長浜教化センター」を設け、長浜・五村別院を中心とする教化事業の展開が図られる。

《教区教化の理念と姿勢》

- ①「出会いの場」を創造する
- ②「教化とは何か」を憶念する(原点回帰)
- ③「男女共同参画」の広がりや深まりを目指す
- ④「地域との連携と課題共有」を図る(共同教化・循環する教化)
- ⑤「教区教化は、教区人の手で・「自分ごと」になる教化を目指す

真宗大谷派
宗務役員
(一般職)募集!

全国のたくさんの寺院、僧侶、門徒とともに教えを聞き、全世界に真宗の教えを届けていくため、このたび、真宗大谷派宗務役員として、諸事業に従事いただける方を募集いたします。詳細は下記「職員採用特設ページ」をご覧ください。

お問い合わせ

真宗大谷派宗務所 総務部 宗務役員募集係
TEL:075-371-9272



採用時期

2025年4月1日付で採用され、試用期間(1ヵ月以上1年以内)を経て正式に任用

応募資格

- ①高等学校卒業又はこれと同等以上の学力を有すると認められる者
- ②真宗大谷派の僧侶又は門徒(帰敬式を受式し、所属寺が明確であること)



職員採用
特設ページ

読者のお便利
梅仕事

滋賀県草津市
久保 享子(55歳)

『同朋新聞』は、毎月お手次のお寺の班長さんが届けてくれます。6月号のクロスワードパズルの答えが「あおうめ」であったことから、母のことを思い出しました。

私が娘の頃は、母が梅干しや梅酒を作ってくれていました。当時の私はそんなことにはまったく興味がなく、母が作ってくれたもの

を食べるだけでした。

母は10年ほど前に亡くなり、今は亡き母に代わって私が梅仕事をしています。作った梅干しは家で食べるだけでなく、家族のお弁当に入れたりもしています。母の梅干しは、よくお店で売っているようなカツオが入っている梅干しや、はちみつ入りの甘い

梅干しではありません。昔ながらの塩だけで漬けたしょっぱい味の梅干しで、その味が私も主人も大好きでした。「亡くなる前にもっと母に教えてもらっておけばよかったな」と少し後悔もしつつ、母の味を求めて試行錯誤しながら梅仕事に励んでいます。

お便り募集 『同朋新聞』の感想をはじめ、日々の思いなどをお寄せください。

宛先 Eメール/shuppan@higashihonganji.or.jp FAX/075-371-9211
〒600-8505 京都市下京区烏丸通七条上る 東本願寺出版「同朋新聞編集係」

住所・氏名・年齢・電話番号を明記してお送りください。紙幅の都合上、掲載時は添削・抜粋させていただく場合があります。

東本願寺御用達
日下念珠店
〒600-8174
京都市下京区烏丸通花屋町下ル
電話 (075)351-6325
フリ-FAX 0120-89-5255
定休日: 日曜日

東本願寺 仏事サポートセンター福岡「都市圏仏教入門講座 in 福岡」

開催日
2024年
① 9月28日(土)「仏さまの教えのハテナ?」
② 10月12日(土)「お経のハテナ?」
③ 12月 7日(土)「通夜・葬儀のハテナ?」
2025年
④ 1月18日(土)「お寺のハテナ?」
⑤ 2月15日(土)「お念仏のハテナ?」
⑥ 3月 8日(土)「ご本尊のハテナ?」
⑦ 4月12日(土)「浄土のハテナ?」
※各回14:00~15:15

講師
よしもと のぶあき
吉元 信暁氏
九州大谷短期大学 学長

定員 WEB:500人/会場:40人
会場 お仏壇のはせがわ 福岡本店
(福岡市博多区上川端町12-192 はせがわビル4F)

参加費 [全7回]
WEB:5,000円
会場:7,000円

主催:東本願寺 仏事サポートセンター福岡 / 共催:お仏壇のはせがわ / 協力:九州大谷短期大学

お申し込み・お問い合わせ先 | 東本願寺 仏事サポートセンター福岡 TEL:092-734-0208 詳細・お申し込みはこちら▲

ご案内

真宗本廟

開門・閉門時間/3月~10月:5時50分~17時30分
11月~2月:6時20分~16時30分

晨朝(おあさじ)

【場所】阿弥陀堂及び御影堂
【時間】毎日7時~

晨朝法話

【場所】御影堂
【時間】毎日7時30分頃~

真宗本廟法話

【場所】視聴覚ホール・御影堂・参拝接待所仏間
【時間】通常 10時10分~/13時10分~
速夜日(12・27日)13時10分~
御命日(28日) 9時30分~ ※その他、時間・会場を変更する場合があります。

参拝接待所ギャラリー

【時間】9時~16時
涉成園展 9月6日~

詳しくは → 東本願寺 検索



しんらん交流館

真宗本廟(東本願寺)へご参拝の際には、ぜひお立ち寄りください。
開館時間/9時~17時 休館日/毎週火曜日、9月21日

9月の定例法話

【日時】毎日14時~(12日・27日は10時~)
※休館日は休会。その他、都合により休会する場合があります。

9月の東本願寺日曜講演

【時間】9時30分~11時
【講師】9月1日 白山 勝久氏 (東京教区西蓮寺候補衆徒)
9月8日 荒山 淳氏 (元名古屋教区教化センター主幹)
9月29日 武田 未来雄氏 (教学研究所属員)

交流ギャラリー

「東本願寺の今昔」展 開催中

詳しくは →

浄土真宗ドットインフォ 検索



2024年

真宗本廟奉仕に参加してみませんか

真宗本廟奉仕を機にぜひ帰敬式を受式ください

真宗本廟おみがき奉仕団

(2泊3日)10月30日(水)~11月1日(金)
(1泊2日)10月30日(水)~31日(木)

真宗本廟報恩講を迎えるにあたって、阿弥陀堂や御影堂の仏具のおみがきを日程の中心とした奉仕団です。

真宗本廟報恩講奉仕団

(2泊3日) 11月20日(水)~22日(金) 11月24日(日)~26日(火)
(1泊2日) 11月20日(水)~21日(木) 11月24日(日)~25日(月)
満館 11月27日(水)~29日(金) 満館 11月27日(水)~28日(木)

真宗本廟報恩講の法要参拝を日程の中心とした奉仕団です。

【参加費】(2泊3日) 18,000円、米2kg(1升4合)または米代1,300円
(1泊2日) 13,000円、米1.2kg(8合)または米代800円
※上記は大人(15歳以上)の場合です。

※申込締切は各入館日の40日前です。

お申し込み・お問い合わせ 同朋会館・研修部 TEL:075-371-9185



入館中はお仲間や他団体の方々とカフェ(無料)でほっこり!

救援金のお願い

宗派では、このたびの「令和6年能登半島地震」に対する救援金を動員しています。みなさまからの温かいご支援をお願い申し上げます。

救援金口座

郵便振替口座番号 00920-3-203053

加入者名

真宗大谷派

※通信欄に「令和6年能登半島地震」と記載ください。

救援金総額

237,744,214円 (2024年8月5日現在)



今月号の『同朋新聞』を読んで、クロスワードパズルを完成させよう!

プレゼント付

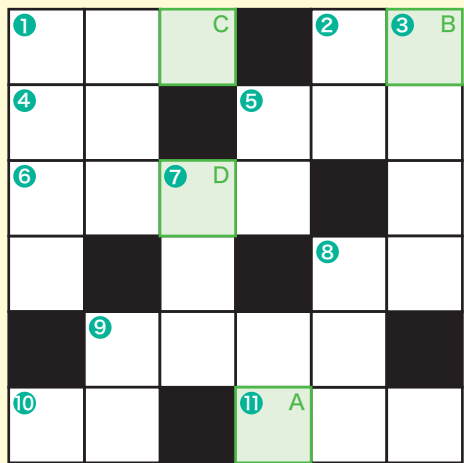
タテのカギ

- 1 真宗本廟〇〇〇〇奉仕団とは、真宗本廟報恩講を迎えるにあたって、阿弥陀堂や御影堂の仏具のおみがきを日程の中心とした奉仕団です。(8面)
2 6月22日、大阪教区第23組浄泉寺(和歌山県新宮市)において、〇〇松忌法要が勤修されました。(7面)
3 「人間というのちの相」今月のタイトルは「木桶の醤油を〇〇〇〇代に」です。(2・3面)
5 手水屋形の素屋根は、今では見ることが少なくなった丸太を組み合わせた京都〇〇〇〇統工法で造られています。(1面)
7 「今月の法話 如是我聞」今月のタイトルは「〇〇〇の樹」です。(1面)

ヨコのカギ

- 1 「読者の〇〇〇〇」今月のタイトルは「梅仕事」です。(7面)
4 「特集」帰敬式とは、「おか〇〇り」とも言われ、「仏」「法」「僧」の三宝に帰依し、宗祖親鸞聖人が明らかにされた「お念仏の教え」に自らの人生を問いたずね、真宗門徒として新たに歩み出すことを誓う大切な儀式です。(6面)
6 7月18日、「お葬式・お墓から人生を見つめる講演会」が、大谷祖廟・〇〇〇〇んにて開催されました。(7面)
8 法名には「本ざ〇〇ん定法名(本山で選定された法名)」と「住職選定法名(住職が選定した法名)」の二通りがあります。(6面)
9 「現在を生きる」今月は、大垣教区通信員〇〇〇〇つ宏さんが執筆しています。(4面)
10 「人間というのちの相」「〇〇よく」はユネスコの無形文化遺産にも登録されています。(2・3面)
11 「縁—お寺の掲示板—」今月の言葉は「教えたいという人にニセモノはあっても 聞きたいという人にニセモノはあり〇〇〇」です。(4面)

「タテのカギ」「ヨコのカギ」それぞれの設問に答え、クロスワードパズルを完成させましょう! 9月号の『同朋新聞』を読むと、ほとんどの答えがわかります!!



7月号のクロスワードパズルの答えは、すいれん

答え



※答えはすべて「ひらがな」でお答えください。

読者のこえ

6月号を読んで

「人間というのちの相」準備することより、手放していくことの方が大事なんじゃないか」とのお話が印象に残りました。(京都府70代)

「特集」あらためて災害の怖さを知りました。また、たくさんの方々支援しているのを見て、人は一人ではないことを実感しています。(秋田県40代)

チャレンジ! 正解者の中から抽選で5名様に「東本願寺出版オリジナル図書カード1,000円分」をプレゼントします!

郵便はがきまたはメールにて、①「クロスワードパズルの答え」②「郵便番号」・「住所」・「氏名」・「年齢」・「電話番号」と③「同朋新聞」の感想や紙面に関する要望を添えて、右記までご応募ください。今月号の締め切りは10月10日(木)(当日消印有効)です。

宛先

〒600-8505 京都市下京区烏丸通七条上る 東本願寺出版 「クロスワードパズル係」まで

メールでも応募できます!

はがきと同様に必ず左記①②③を記入し、「件名」に「同朋新聞9月号クロスワード応募」と入力の上、higashihonganjishuppan@gmail.comへお送りください。

応募はコチラ!



〈ご注意〉 ◆当選者の発表は、発送をもって代えさせていただきます。◆個人情報(住所)はプレゼントの発送および紙面づくりの参考に使用し、それ以外の目的には使用しません。◆感想は「読者のお便り」や「読者のこえ」に掲載する場合があります。◆本クロスワードパズルは、独自のルールに基づいて作成しております。

〒600-8153 京都市下京区正面通烏丸東入 Tel.075-343-0458 Fax.075-371-0458

法藏館

https://pub.hozokan.co.jp info@hozokan.co.jp 新刊メール配信中! お買上16,500円(税込)以上送料無料 表示価格はすべて税込

特集:和讃に親しむ

新装版 浄土和讃講話 川瀬和敬著 一、五四〇円

新装版 浄土高僧和讃講話 川瀬和敬著 一、五四〇円

新装版 正像末法和讃講話 川瀬和敬著 一、五四〇円

新装版 親鸞全集4 和讃書簡 真継伸彦著 二、四二〇円

新装版 現代語訳 親鸞全集4 和讃書簡 真継伸彦著 二、四二〇円

新装版 親鸞全集4 和讃書簡 真継伸彦著 二、四二〇円

新装版 親鸞全集4 和讃書簡 真継伸彦著 二、四二〇円

新装版 親鸞全集4 和讃書簡 真継伸彦著 二、四二〇円

日本仏教を変えた 親鸞の独自性 「教行信証」と「選択集」の比較から見えてきた念仏の真価 根津 茂著 一、九八〇円

悩んだら「歎異抄」 親子・家族関係の相談からカウんセラーが見つけた光 富田富士也著 「歎異抄」の言葉には人とのつながりを見出し、気持ちの分ちあひを促すための発想の転換があることを、長年の相談活動から明らかにする。二、〇九〇円

浄土和讃のおしえ 澤田秀丸著 親鸞晩年の傑作「浄土和讃」全首を、意識・解説法話で読み解く入門書。二首の解説が見開き二頁で、わかりやすい。文字大きめ。上巻 一、三〇〇円 下巻 一、三〇〇円